



## 紙の裏表

# 佐野史郎

小さい頃、絵を画くのが好きだった。特に画用紙にクレヨンで絵を画くのが好きだった。子供ならば当たり前のように思えることだけれど、今の子供たちも同じように好きだろうか？ 生まれた時からパソコンが身近にある御時世だから、クレヨンじゃなく、マウスを片手に絵を画く子供たちも多いのだから。モニター画面が画用紙に取って代わるというわけだ。

クレヨンで画くのが好きと言ったけれど、クレヨンで画いていた時には、早くクレパスで画きたいと思い、パステルにも憧れていた。初めて水彩絵具で絵筆を手にした時など、絵描きさんになってもなつたような気分だったにちがいない。そうして、クレパスと水彩絵具を併せて画いたりするのを覚えた頃には、早く油絵を画きたいとも思っていた。

随分とませた子供だと思いかもしいけれど、これには訳がある。父はヴァイオリンをたしなみ、母もピアノをかじっていた。両親の共通の趣味がクラシック・ミュージックだったことが縁で、当時ピアノをモチーフにして作品を発表していた廣田建一という若手の画家と知り合い、絵を教わっていたのである。教わったといっても、一緒に遊んでもらっていたというのが本当のところなのだが。

その若手の画家も、今やブラジルはサンパウロで活躍する日本人画家のなかにあつては重鎮である。その廣田先生から、まず教わったのは、画用紙の裏表であつた。虫眼鏡で拡大してみると、紙の模様は、裏と表では違う。模様というより、紙の状態と言った方が良さだろうか……？

〇いデコボコが連なつたように見えるのが表、縦横に十の線が走っているように見えるのが裏。梳き地に水に溶かした紙料を流しこみ、乾いた時に下方の地の紗の跡がつくので裏だと分かるのだ。今でも、二人して座卓の上に広げられた画用紙を虫眼鏡で覗きこんでいたのを、はつきりと覚えている。

この、紙に裏と表があることを知ったことで、この幼児が、相対する右と左と



佐野史郎 (さの・しろう)  
●1955年鳥根県出身。美学校で絵を学ぶ。20歳でシェイクスピア・シアターの創立に参加。25歳で状況劇場に移る。'86年林海象監督の映画「夢みるように眠りたい」の主演に抜擢され、以後映画、テレビドラマに多数出演。

いう感覚に戸惑いを覚えたことも、またはつきりと覚えている。パソコン画面ならば、そんなこともなかったろうに……。右と教わった方向が、回れ右をすると、先ほどの右が左になるということに、どうしても合点がいかなかったのだ。

識別できる紙の裏表の存在とは違う、モノと観念の差異に戸惑つたまま、実は未だに、その差異が解らないでいる。紙の裏を表にして使うことが悪かろうはずもないし、表が正しく、裏は間違つてると廣田先生に教わつたわけでもない。

けれど、右も左も言葉の差異があるだけで、事実と同じだということを知れば、紙の裏表もまた、紙であるという事実のなかで、その意味から解放され、自由に絵を画ける。

どう使おうと、解つて使えば、右だろが、左だろが、表だろが、裏だろが、上であろが下であろが自由なはずだ。紙ならぬ神もまたそうだと思うのだが、世界はどうもカミの意味から自由であることが難しいようだ。

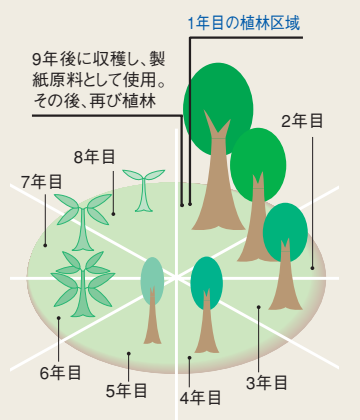
## PAPER COLUMN Vol.6

### 紙の原料を育てています

みなさんは製紙会社が海外で植林していることを知っていますか？ すでに世界9カ国で実施しています。海外植林のメリットは、広大で平坦な土地の確保、作業の機械化などが挙げられます。

植林は利用されていない牧草地や荒廃地などで行い、約8年で成木になるユーカリやアカシアなどを植えています。

例えば、右の図のように植林地を8等分にして、毎年、苗木を植えていきます。9年後からは収穫が始まり、収穫した区域には再植林を行います。こうした計画的な植林→保育→収穫→再植林により森林のサイクルが生まれ、安定した原料確保ができ、また、地球温暖化防止にも役立つのです。



家庭で、オフィスで、右紙リサイクルの輪、広げよう！



◆次回は10月30日号、栗山英樹さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>